

第九中学校・中央中学校統合委員会 要 点 記 録

第 3 回

開 催 日 時	平成 21 年 9 月 10 日(木曜日) 午後 4 時 03 分～6 時 29 分	
開 催 場 所	中央中学校 図書室	
出席者	委 員	望月清次、高橋登志子、佐藤富代、北村博、森居ふみ子、濱本敏典、矢島敏正、村山智江、吉田眞知、南直也、若林由紀恵、山口廣子、渡部亜紀子、志賀文恵、宮下彰、鳥海重年、前田光男、森孝夫、吉村恒治 (敬称略、順不同)
	そ の 他	
	事 務 局	学校再編担当 設計事務所：パシフィックコンサルタンツ(株)
傍 聴 者	1 人	
会 議 次 第	【議事】 1 中央中学校校舎及び周辺の状況について 2 今後のスケジュールについて 3 中央中学校校舎改築の考え方について 4 アンケート調査について 5 第九中学校校舎の改修について 6 その他	

第 3 回 第九中学校・中央中学校統合委員会 会 議 要 旨

委員長

これより第3回の統合委員会を開会する。

本日、傍聴を希望される方が1名いる。傍聴を許可したいと思うが、よろしいか。

— 異議なし —

1 議 事

議事(1)中央中学校校舎及び周辺の状況について

委員長

最初に中央中の校舎及び周辺を視察するが、その前に事務局と設計事務所から説明をお願いしたい。

■警察大学校等跡地の全体建築基本計画について、事務局より説明
(補足)

現在建っている周辺建物の高さについて

- ・中野電ビル(中野税務署南側の黒いビル) 約 115メートル
- ・中野サンプラザ 約 92メートル

- ・サンクォーレタワー（中野サンプラザ北側） 約96メートル
- ・丸井本社ビル（サンクォーレタワー北側） 約90メートル

■計画地及び周辺の現況と将来計画について設計事務所より説明

委員長

それでは、これから校舎等の視察を行うが、屋上から周りの状況をしっかりと確認していただきたいと思う。

— 施設見学 —

委員長

天気もよくて、皆さんしっかりと屋上から視察していただいたと思うが、質問や意見、感想等あればお願いしたい。

委員

学校北側の早稲田通りの幅が15メートルから20メートルに拡幅されるようになっている。5メートル拡幅ということは、早稲田通りの両側に2.5メートルずつセットバックするのか。

設計事務所

学校側にだけ5メートル下がることになっている。

議事(2)今後のスケジュールについて

委員長

今年度の検討スケジュールを改めて検討した結果、統合委員会の開催を1回増やすことになった。今後のスケジュールについて設計事務所から説明をお願いする。

■学校統合委員会スケジュール（予定）について設計事務所より説明

（概要）

◎学校建築について勉強する段階【改築理念（学校像）の共有】

- 第1回（6月26日）
- 第2回（7月21日）
- 第3回（9月10日）

◎学校建築について広く議論する段階

- 第4回（10月）【改築基本方針について】
 - ・施設のあり方について検討（導入機能、動線、ゾーニングの検討）
 - ・改築基本方針の決定
- 第5回（11月）【配置・平面計画の検討（その1）】
 - ・配置計画案の検討
 - ・平面計画案について検討
 - ・アンケート調査結果の分析

◎考え方を整理して基本計画をまとめる段階

- 第6回（1月）【配置・平面計画の検討（その2）】
 - ・配置計画案について（検討・選定）
 - ・平面計画案について検討
 - ・構造・設備における留意事項の整理
 - ・工事順序、方法、期間の検討
- 第7回（2月）【配置計画・平面計画のまとめ】
 - ・平面計画案について（検討・選定）

- ・報告書案について
- ・今年度のまとめ及び今後の課題の整理

委員長

結果的には委員会の開催が1回増えたことになるが、それを踏まえて意見や質問があればお願いしたい。

今年中に平面計画案の検討までいくということで、どの辺までの検討かわからないが、10月、11月と忙しくなると思う。

設計事務所

建築で言うと基本計画、基本設計、実施設計、工事とある。実施設計は工事をするための図面を作成することである。基本設計は工事用の図面を書くための考え方や専門的な技術面のところを整理したものである。そこでデザインや実際の形が決まっていく。基本設計は基本計画で制定した条件に基づいて行うことになるので、このための条件決め、大体のボリューム、何層にするといった概略を決めるのが基本計画ということである。

委員長

そうすると、10月の委員会ではそのような資料が出てくるということか。それとも皆さんの意見を聞いてということか。

設計事務所

どういう機能を導入するか、どのくらいの規模にするか、教室の大きさはどのくらいにするかなどについて、次回お出しできると思う。

委員長

皆さんから意見や質問はあるか。

委員

今の説明では、新しい学校の建物についての検討スケジュールとなっている。平成24年度に統合し、最初の2年間は九中を仮校舎としての開校となる。我々、統合委員会としては、平成24年度に開校する新しい学校のあり方も検討しなくてはならない。新校舎のことももちろん大変なことだが、開校する学校についてのあり方の検討も、気持ち的には先に進めたいと思うが。

設計事務所

まさに今の意見のとおり、新しい学校がどうあるべきかということ、それに対してどうすべきかというあり方というものを主体として議論し、それにならった形の基本計画としていく。

委員長

10月の委員会ではあり方を主とした意見交換になると思うが、皆さんいろいろと勉強をして、意見をいただきたいと思う。

ほかに意見や質問はあるか。ないようなので、このように進めていきたい。

議事(3)中央中学校校舎改築の考え方について

委員長

それでは、次に中央中学校校舎改築について、専門的な見地からの考え方を設計事務所から説明をお願いしたい。

設計事務所

まさに今意見のあったあり方について議論していく中で、一つの参考資料としてお考えいただきたいと思う。

■中央中学校校舎改築の考え方について設計事務所より説明 (概要)

<中央中学校校舎改築(統合新校校舎建築)の基本的考え方>

◎改築にあたっての基本的な考え方

- 中学校教育の充実と円滑な学校運営を図ることを主旨として、未来を担う生徒たちのために、高機能で多機能な学習環境の整備を図る。
- 特別支援学級における特別支援教育の充実に資する施設づくりを行う。
- 生徒たちや周辺地域の方に対する環境教育の充実を図るとともに、地球温暖化等の環境問題に対応をするため、施設の緑化などのほか、自然エネルギーを活用した省エネ・省資源型の施設づくりを行う。
- 学校運営上支障のない範囲において地域開放を行い、社会教育等の利用に配慮するとともに、子どもから高齢者、障害のある人にも不自由なく利用できるユニバーサルデザインによる施設づくりを行う。
- 不審者の侵入防止などの安全対策について十分な対策を講じるとともに、大震災時の地域防災拠点としての活動を踏まえ、防災機能の充実、災害時に防災公園と連携した避難・救援活動が円滑に行なえる施設づくりを行う。

<これからの中学校施設に求められる機能>

◎特色ある教育に対応した学校づくり

- 多機能と柔軟性
- ゆとりと快適性

◎環境にやさしい学校づくり

◎安全・安心な学校づくり

◎地域とともに育てる学校づくり

<中央中学校の改築にあたっての視点>

◎高機能で柔軟性があり、主体的な学習を支える学習空間の整備

- 少人数学習、習熟度別学習に対応したスペースの設置
- 学習空間の自由度を高める多目的スペースの設置や、廊下、テラス等との連携
- 将来的に専門性が高く柔軟な教育への対応
- 図書室の情報化、ネットワーク化（図書室に隣接してコンピューター室の設置、地域図書館等との連携）、ラーニングセンター、メディアセンターとしての機能
- 学校全体の情報化（教室内、多目的スペース等へのコンピューターの設置）

◎豊かな生活空間としての学校づくり

- 生徒の多様な過ごし場所、交流の場の提供（多目的スペースの設置、生徒の居場所の検討）
- ぬくもり、潤いがあり、気持ちよく過ごせる生活の場（生徒、教師ラウンジスペースの設置）
- 過ごしやすい室内環境（自然通風、自然採光、断熱性の向上等）

◎環境への配慮、エコスクールの実現と環境学習の仕組みづくり

- 敷地内における積極的な緑化の設置（屋上緑化、壁面緑化、敷地周囲の緑化、校庭の芝生化等）
- 環境学習効果にも配慮した自然エネルギーの活用（太陽光発電、風力発電、雨水再利用等）
- 地球温暖化対策としての省エネルギー性能の向上（外断熱、ライトシェルフ、ルーバー、照明の人感センサー、LED照明等）
- 自然のぬくもりが感じられる自然素材の活用（木、石等の活用）

◎安全・安心な学校づくり

- 不審者の進入等に配慮した死角のない施設計画
- 管理諸室から校舎全体の見通しが容易な空間構成
- 誰もが快適に使えるユニバーサルデザインの思想に基づいた施設づくり

◎地域との連携、地域教育力の向上

- 体育館、特別教室等の地域への開放（開放エリアと非開放エリアの区画の検討）
- 地域の防災拠点としての機能（避難場所としての設備や備品の整備、防災倉庫）
- 中野駅周辺地区まちづくりの「顔」となる施設（地域と調和した景観計画）

委員長

今、設計事務所から改築にあたっての基本的な考え方を説明していただいたが、質問等あればお願いしたい。

委員

ここでは、何階まで建てられるのか。

事務局

学校として何階までがいいかというのは別の話として、隣の専門学校の高さからして、少なくとも8階ぐらいは建つと思う。

委員

条件的にゆとりがあるのなら、一つの教室を広くして部屋数も多くしたらどうかと思ったが。

事務局

あり得るが、建物を大きくすると校庭にも影響するので、校庭との兼ね合いにもなる。

委員長

ほかにあるか。

委員

説明の中で「こんな学校なら行きたいと思える教育環境」ということが示されていたが、とてもいいことだと思う。ぜひそういう環境づくりをお願いしたい。

子どもたちの学びが多様化しているので、いろいろな大きさの部屋があるということが必要だと思う。2教室分ぐらいの部屋で学年の集会や発表会ができるような多目的ホールのものも検討いただけるとありがたい。

特別教室のあり方として、例えば現在LL教室というのは、ほとんどの学校でなくしている状況にあるが、教育のニーズに合わせた環境整備も考えていただければと思う。

特別支援学級について、現在の九中には後づけの形で学級が設置されたが、今回は当初から新校にそれを設置することになるので、その子どもたちに合った教室というのをつくらなければいけないと考える。子どもたちが登下校するのに、他の子どもとのかかわりがなかなかできないお子さん方なので、そういうことを配慮したつくりであったり、死角をつくっていくようなことも必要であろうと思う。新校の子どもたちが特別支援学級に行きたい場合に、同じ学校内であると他の目が気になってなかなか通えないというようなこともクリアできるように検討して設計していただけるとありがたいと思う。

事務局

今回の中央中の校舎の改築については、少し専門的な視点でこのような考え方を示させていただいた。先ほど委員からも意見があったが、2年後に九中を仮設校舎として開校する統合新校のあり方について当然ここで議論していただくことが前提である。どんな学校にしたいのかななどを十分ここで議論していただいた上で、ハード面に反映させていくことになるが、九中へは仮設校舎として入るのでかなり制約がある。そういった意味で、今回の統合新校の中で魅力ある学校にしていくためにどうしていくかというところを、この中央中学校の校舎の改築に反映できるように皆さんの意見をいただきたいということが趣旨である。当然、今の意見についても視野に入れて設計に生かしていくような議論をいただければと思っている。

委員長

皆さん、よろしくをお願いしたい。ほかにいかがか。

委員

これからの中学校施設に求められる機能で、「地域とともに育てる学校づくり」の部分では施設的にはどういうところまで考えていくのか。例えば、区内の中学校でも、地域の方が会議を開いたりさまざまに活動できる部屋があったり、私が以前にいた区では、災害が起きたときにこの町会の方はこの部屋を使うと決まっていたりする。それによっても学校の部屋割りも少し変わってくると思うが。

事務局

以前にお配りした冊子「中野区立小中学校施設改築等整備の考え方」の「地域の人々が活用・管理しやすい学校施設」という項目で何点か挙げている。この考え方に基づいて、新しい中学校をどうしていこうかということ、また、今後の基本計画、基本設計に反映できるものにするかどうかということなどを議論していただければいいと思っている。ここに書かれているものすべてが必要だということではなく、この地域、この学校にはこれが必要だというようなところを議論いただければと思う。

委員長

方法とか部屋割りなどについて、これから詰めていく中でいろいろと話し合っていきたいのでよろしくをお願いしたい。

委員

中央中は、現在、防災の避難所には指定されているか。

委員

囲町町会などの避難所になっている。

委員

新校舎は平成26年に完成ということだが、南側の防災公園となるべきあたりは、多分、まだ全然まとまっていないと思う。いつになるかわからないと思うので、やはり今度の新校舎にもある程度避難所という機能も持たせておかないといけないと思う。南側がいずれ防災公園になるからというのではなくて、今と同じような機能は残しておいてほしい。

委員

以前、ほかの小学校の統合時にも申し上げて防災担当にもお願いしたところであるが、統合で学校そのものの数が減るので、その時には、どのエリアの人の避難所はこの学校というような見直しをお願いしたい。災害時には、学校の何も無いフロアが、ある期間の防災の場所となるので、今回もお願いしたいと思う。

地域コミュニティ施設としての視点では、小学校と中学校では違ってくるケースがあると思うが、地域や子ども会などで活動するとき、水が使って調理台がある家庭科室のような機能のある教室を活用させていただくと、非常に活動範囲が広がってくる。学校の休業日に活用することを視野に入れた、その教室の位置なども考慮していただきたいと期待している。

委員長

「中央中学校の改築にあたっての視点」というところでしっかりと書かれていると思うが、これからいろいろな教室の配置などの議論では、細かい話し合いになると思う。

今日のところは、ほかに意見などはいかがか。

委員

示された考え方などは、いろいろとよく考えていただいていると思う。個人的な考え方であるが、教育では私たちはよく言葉にする、不易流行というようなことがある。私は流行に流され過ぎず不易の部分をしっかり見据えて考えてみてはどうかという考え方を持っている。

そういう意味では、学習については、不易の部分を考えれば学級単位での学習が基本であり、それに加えてのティームティーチングとか指導法のさまざまなことがあると思う。また、体づくりは、やはり自然の光の中の校庭が基本だろうと思う。そういった部分も見据えながら、また時代に対応できるようなことを加味しながら、というスタンスで考えていきたいと思っている。

委員長

学校関係からということで、大変貴重な意見であったと思う。ほかにあるか。

委員

ここで話ししていいのかわからないが、確認したいと思う。

我々は、中野区立小中学校再編計画に則ってこの統合委員会で、新しい学校のことについて議論をしていくが、その大もととなる計画は大丈夫なのか、変わることはないのだろうか。いろいろと変わるようでは、我々は3年間安心して議論できないという心配がある。また、最近、「これからの中野の教育検討会議」に出ている方の話を聞いて、小中一貫校であるとかあるいは学校

選択制であるとかの議論が出るかもしれないというような状況で、少し不安になってくる。我々の土台がどうなのか、あと3年間、我々はこの場所で新しい学校の議論をして大丈夫なのか。

事務局

平成18年3月に、国の警察大学校等土地の土地処分方針を受けて、現在の中央中の敷地プラス2,800平方メートルのところで統合新校を立ち上げようという形になった。この決定については、平成18年12月に作成した「中野駅周辺まちづくりランドデザインのバージョン1」の中で明らかにされたことである。現在、「ランドデザインバージョン2（案）」についてパブリックコメントで意見募集をしているが、この統合新校については変更がなかったと認識しているので、今後3年間この統合委員会を進めさせていただくという思いでいる。

もう一点の検討会議についてである。教育委員会としては、小中学校の中・後期の再編計画について平成20年度中にお示しすることを考えていたが、その後、少子化あるいは子どもたちの学級数の減だけではなく、さまざまな要素を加味した上で、中・後期について考えていこうということで、「これからの新しい中野の教育検討会議」を今年6月に設置した。平成22年の2月に報告書を出すこととしているが、それは具体的に再編をどうするかとかいう内容のものではない。その報告を受けて、教育委員会として、平成22年度中に、中・後期の素案を考えていこうという段階である。検討会議の中で一貫校も導入していくとなれば、法務省の話もあるし、この統合新校がそういうことになるのではないかと区民の方の心配もあるようだが、そういうことは事務局ではないと思っている。

委員

私は小中一貫校に賛成しているわけではないが、一般住民の方の中には、中野区にも欲しいという声もあるかもしれない。だから、前期の再編計画は計画どおりやるという、我々統合委員会が安心して新校をつくるため議論ができるような強いメッセージを確認したかった。

事務局

確かに、今回の「新しい中野をつくる10か年計画」の改定の中でも、連携教育とあわせてまた一貫校の設置についての検討をしていくとあるので、ターゲット的にここはそうなるのではないかと憶測もあるように聞いている。しかし、10か年計画の改定については今後10か年を見据えたことが書かれているので、即ここで一貫校というようには認識してない。それなので、この統合委員会では、統合新校について安心して十分な議論をしていただきたいと思います。

委員

私も今の委員の発言にあったような意見を耳にしているが、統合委員会としては、やはり新しい学校のスタートのために準備をきちりしておいたほうがいいと認識しているが、それによろしいか。

事務局

そのようにお願いしたい。

委員

最初の10年前の計画からいうといろいろな議論が出ているし、社会的な経済状況も、それから区の財政のことも、それこそ区のトップが変わったらどうなるかなどという噂まで耳にしているが、この統合新校のことは、子どもたちのために間に合うような準備はさせてほしいと思うので、一緒にぜひ考えていきたい。

委員

もちろんおっしゃるとおりだと思う。

委員長

平成22年度からの新しい10か年計画などの検討も進められている中で、皆さんの不安もあると思うが、この統合委員会で我々がしっかりと考え方をまとめて区へ申請していけば、動かすことはできなくなると思うので頑張っていきましょう。

委員

はい。

委員

2,800平方メートルほど敷地が広がるというが、早稲田通り拡幅に伴うセットバックは別に
して、実質的にそれだけ広がるということか。

事務局

今の敷地の南側に実測で2,800平方メートル分の土地を買うのでその分が広がる。早稲田通
りから5メートルセットバックする部分は、横に100メートル弱あるので500平方メートル弱狭
くなる。差し引きすると約2,300平方メートル広くなり、敷地面積の合計が約11,000平方メー
トルとなる。

委員

では、先日見学した豊島区立明豊中学校と同じぐらいの敷地とイメージであるか。

事務局

もう少し広いと思う。

委員長

明豊中は敷地がひし形のような形であった。土地の形によっても建てやすいなどあると思う。

この件については、よろしいか。

もう一つ、前回事務局から教科教室型の学校の説明があったが、今回は資料を用意してもらっ
たので説明をお願いします。

事務局

特別教室型というのは、今まである中学校の形式である。それに対して、教科教室型というの
は、国語や数学にしても専用教室があり、生徒が授業の都度移動する形式である。今回はその比
較ができるものを設計事務所に用意してもらった。事務局としては、教科教室型の課題に挙げら
れているようなことを踏まえると、この学校で教科教室型を推奨しておらず、従来の特別教室型
の校舎とするのがいいと考えている。

■教科教室型と特別教室型の比較について設計事務所より説明

(概要)

◎教科教室型と特別教室型の比較

○概要

- ・教科教室型(以下「教」)・・・すべての教科について、専門の教科教室で授業を行う。生徒は
ホームベースを拠点とし、各授業時間に教科教室へ授業を受けに移動する。
- ・特別教室型(以下「特」)・・・基本的に、基幹科目の授業は普通教室で行い、限られた教科の
授業のみ特別教室で行う。

○授業に対する意識

- ・教・・・教科教室に自分で向かい、教材は必要なものを自分で選んで持っていく。(能動的)
- ・特・・・自分の教室で教師を待ち、教材はその都度机から出して使う。(受動的)

○動線計画

- ・教・・・生徒が一日をとおして校舎全体を移動するため生徒の移動負担への配慮が必要になる。
- ・特・・・生徒が一日の大半を普通教室で過ごすため、綿密な動線計画が不要。

○学習空間の多様性

- ・教・・・教科ごとに教室作りができるため、特徴ある授業ができる。各教科の中間領域(ホール
など)に特色ができ、学習空間の多様性が生まれる。
- ・特・・・ホームルームとして決められた教室があるため、生徒の安定した居場所が確保できる。

○管理・教師の視点

- ・教・・・生徒の移動が頻繁で、管理が難しい。教員は各教科教室や、それに付随する教師スペ
ースにすることが多く、教師同士の連携が取りにくい、教師が自分で自由な教室づくり
ができる。
- ・特・・・生徒の移動が少ないため、管理が容易。教師は授業時間以外に職員室にすることが多

く、教師同士の連携がとりやすい。

○生徒の居場所

- ・教…校舎全体が居場所となる。そのため、計画段階で生徒の居場所への配慮(視線を避ける場や、たまりの場)が必要となる。
- ・特…同じ場所にいることが多いため、居場所の選択性は低い。

○交流

- ・教…すべての学年が移動することで、異学年間の交流が生まれる。また、教師と生徒との交流も生まれやすい。
- ・特…ひとつの学級としての連携が強まる。

○面積

- ・教…教科教室以外に生徒の拠点となるホームベースが必要となり必要面積が大きくなる。建物全体として工事費が大きくなる。
- ・特…教室と生徒の拠点が同じであるため、必要面積は小さくてすむ。

◎教科教室型の課題

- 校舎全体を移動するため、休み時間が忙しくなる。また、生徒に時間管理能力が求められる。
- 特別教室型の場合よりも集団への帰属意識が希薄になりやすい。
- 教員の居場所が多くなり、連携をとりにくい。
- 校舎の面積が大きくなり、建築費用も大きくなる。
- 生徒の居場所が多くなり、学校生活の自由度が高い反面、教員、生徒それぞれに高い規範意識が求められる。

委員長

それでは、中央中学校校舎改築の考え方について、これから皆さんのいろいろな意見をもとに修正していくことになるが、一応考え方のベースとしてこのように進めていくので、よろしくお願ひしたい。

議事(4)アンケート調査について

委員長

前回の統合委員会でアンケート調査を実施することにしたが、これについて設計事務所より説明をお願いする。

設計事務所

統合新校の基本構想・基本計画案の策定に向けた基礎データとすることを目的にアンケート調査を実施するが、その案などについて議論いただきたいと思う。

前回の統合委員会で、このアンケート調査は小学生高学年も対象にするという意見があったが、新校舎は平成26年度の完成で、その時に入学するのは現在の小学4年生になる。小学4年生以下のお子さんに中学校に対するイメージがわくかどうかということもあるので、小学生を対象にするのかどうか再度検討が必要だと思う。

また、調査対象とする地域住民の方にはどのように配布するかなども検討いただきたい。

■アンケート調査について設計事務所より説明

(概要)

○調査目的

「第九中学校と中央中学校の統合中学校」に対する生徒、保護者、職員、地域住民の意識、要望を調べ、基本構想・基本計画策定に向けた基礎データとする。

○調査対象

- ・中学生(1年生から3年生まで)
- ・教職員

- ・保護者
- ・地域住民 ※対象範囲を要検討
- ・小学校高学年（将来入学の可能性のあるのは4年生以下）※実施するかどうかが要検討

○調査項目

- ・改築にあたって重要視するもの（対象は、教職員、保護者・地域住民）
- ・第九中学校及び中央中学校の特色（対象は、教職員、保護者・地域住民）
- ・良い点、悪い点（対象は、中学生、教職員、保護者・地域住民）
- ・残したいもの（対象は、中学生、教職員、保護者・地域住民）
- ・生徒の学習空間について（対象は、中学生、教職員）
- ・授業の工夫点（対象は、教職員）
- ・地域開放について（対象は、教職員、保護者・地域住民）
- ・その他（対象は、中学生、教職員、保護者・地域住民）

○調査方法

- ・中学生：学校にて配布、回収
- ・教職員：学校にて配布、回収
- ・保護者：学校にて生徒に配布、回収
- ・地域住民：町会・自治会にて配布、回収 ※要確認

○調査スケジュール

- 9月10日：第3回学校統合委員会にてアンケート案の提出
- 9月下旬：アンケート配布
- 10月上旬：アンケート回収
- 11月上旬：第5回学校統合委員会にてアンケート調査結果の報告

委員長

調査対象の地域住民とは各町会ということになるか。どういう形で調査をしたらよいか。

事務局

地域住民の方については、全員に配るということではなく、何人かの方々にピックアップの形で標本調査というような形でお願いできればと考えている。一つの方法としては、町会推薦の委員に、一人10枚ずつぐらいお願いして、近隣の方などに配布、回収していただくような形ができないかと思っている。

委員

地域住民の方を対象にするのに、いろいろな人がいるので配布先には気をつける必要があると思う。無難な人ばかりに配って模範回答でもいけないと思うが、すごく極端に言うと過激な考え方をしている方がいるので、単純にただそれをアンケートだと受け取ってくればよいが、そうではなく、こういうことを書いたのにどうして取り入れてくれないのか、となりかねない。危ないところもなきにしもあらずだと思う。

委員長

これは依頼された団体が、気をつけてアンケートをとっていただきたいと思う。

委員

統合委員の中に九中の同窓会の会長がいるので、同窓生にも配布してよろしいか。

事務局

同窓会の活動のことも耳にしているが、同窓会ということでピックアップしてしまうと、片方だけになってしまうように思う。例えば、事務局が提案したような形でやっていただくとすれば、配布する枚数や対象などを含めたやり方をこの場で議論していただければと思う。

委員長

意見などをお願いしたい。

委員

1人あたり10枚配布するのは多いので、できれば5枚くらいにしてほしいが。

それから、卒業後1年から2年ぐらいの人たち、現在の高校生を調査対象にしてはどうか。彼らが、学校がこうありたいという一番新しいフレッシュな意見を持っているのではないかと思う。

事務局

この中学生の1年生から3年生という今在学している生徒たちも、新しくできる校舎に通えない。そういう意味では、今の高校1、2年生の方も条件的には同じである。今いる生徒たちからの意見をいただきたいという趣旨なので、高校1、2年生を対象には考えていない。

委員

小学校の4年生以下というのは、中学校は両方とも入って見に来たことはなく、多分よくわからない状態の子が多いと思う。もしアンケートをやる場合、もう少し簡単な質問でないと、きっと理解できないのではないかと思う。

事務局

先ほど設計事務所からの説明にもあったように、実際、その新しい校舎に入ることになるのは今の4年生以下ということになる。小学校4年生以下となると、確かにイメージもわからないので、小学生については対象から外してはどうかと思う。

委員

それについては異論がある。うちの孫が今小学校3年生で、この新校舎に通うことになる。その親が中央中の卒業生で、どのような学校に変わっていくのだろうかと非常に期待を持っている。そういった意味で、先ほど同窓会の話もあったが、ちょうど自分たちが育った学校なので非常に関心を持っている親たちもいるということを少し考慮しておいていただきたいと思う。

委員

今の段階では小学生の保護者は対象に入っていないが、対象にしてはいいかがか。

委員

小学生の保護者に向けてやったほうがむしろいいように思う。卒業生としては、どんな学校ができるかということ非常に期待しているので、同窓会がある学校はいいが、同窓会がないというところが少し寂しいと思っている。

委員

私も調査対象は今の意見でよろしいのではないかと思う。

事務局

調査対象として小学生の保護者をどうするか議論して決めていただくのだが、ここの区域の小学校では、卒業生の中学の通学区域が丸ごとここの統合新校にあてはまる小学校は一つもない。人数的に一番多いのは桃花小学校になると思うが、それ以外の小学校では、3分の1やそれ以下の学校もあるのでその辺りはどうかと思っている。もしそういった卒業生の方をご存じであれば、町会関係で配布するときに対応できないものかと思う。

委員

私のところも、桃花小学校に4年生の孫が通っているが、父親は九中の卒業生で新しい学校に対して非常に関心を持っている。そういう人が地域にどれだけいるかというのは町会側としてはわかるので、ある程度対応できると思う。委員の中には町会推薦の立場できている人、別の立場できているが町会では役職についている人もいるので、その辺りをはっきりさせて、枚数も決めたらまとまるのではないかと思う。

事務局

一つのパターンとしては、町会推薦の委員の方7人。このほかに、個別に配布できるという関係者の方がどなたで、という方法もあろうかと思う。

委員

私は学校評議員の立場できているが、自分の町会へ持っていくことができる。ほかにも町会へ持ち帰ることができる方がいらっしゃるのではないか。

委員

地区委員会には、ちょうどその年代のお母さん方がたくさんいる。

委員

町会の代表の方に持ち帰っていただくと、やはり町会ラインでお話ししなければならない部分があるし、それだと今出されている意見を反映できない部分があると思われる。一つの案であるが、この統合委員会の委員の皆さんは、町会に限らずそれぞれの団体からの推薦などできているので、各委員に10枚ずつ持ち帰っていただき、その中でアンケートをお願いしてはどうか。数についても、必ず10枚配布して書いてもらうのではなく、10枚の範囲内で対応していただくことにしたいと思います。こういう形であれば幅広くご意見を伺えるし、目的がそもそもそういう趣旨なのだと思うが。

委員長

皆さんいかがか。地域住民を対象にするアンケートは、委員が基本的に10枚預かってその範囲内で地域の方をお願いするという形でよろしいか。

委員

各委員が配布する先は、当然中学生の保護者は除外されるということか。

事務局

九中と中央中の保護者には学校を通じてアンケートを配布する。委員の皆さんには、それ以外の地域の方にお配りしていただく形である。先ほど意見のあった同窓生、小学生の保護者でも地域の方であれば構わないということである。

委員

先ほど、今の高校生も対象にしたいと思いますのでは、という意見についてである。アンケートの内容から、今の生徒が自分のいる学校のよさをどうとるかというのもあるが、高校生であれば、今まで通った学校と今の学校との違いの中から、よさであるとかどうあってほしいという意見は出しやすいのではないかと思うが。

委員

単純に言って、配りと回収の問題だと思う。配布する10枚の中で対応するのはないか。

委員長

地域の方であれば、高校生でもいい、小学生でもいいということになるのではないか。

設計事務所

私どもで、このようなアンケート調査をほかのところで小学生、中学生を対象にとらせていただいている。その中で答えていただいている児童、生徒については、現在の学校なりのところで、こういう明るいトイレはいいとか、いい点、悪い点というのを何かそれなりに書いてきてくれている。深いところまで読み込んでどこまで書くかというところはあるが、本当に私どもとしては、計画内容に幅広くいい点、例えば明るいトイレ、清潔なトイレが欲しいという生徒がたくさんいらっしゃったら、基本的な設計の考え方のほうに採光なり通風なり加味した清潔なトイレを重視しようなどとして、入れていくことになる。

委員

テレビのニュースでやっているアンケート調査だと、サンプル対象が多ければ多いほど正確を期するところはあると思うが、今回のこのアンケートというのは正確性を期するものではないと思う。だから、サンプル数が多くてもより近いものが得られるかということ、そうでもないと思うし、結構イメージ的なところもあるので、私も10枚くらいでいいのかなという感じがする。あまり多くても、配る人のプレッシャーになってもいけないと思う。

委員長

いろいろ意見が出されたが、アンケート調査の対象は、中学生、教職員、保護者、あと地域住民ということである。意見をまとめるが、地域住民への調査方法は、皆さん委員が10枚以内で責任を持って配布し、回収していただく。配布先は、小学生でもいいし、高校生でもいいという形にしたい。よろしいか。

— 異議なし —

事務局

アンケート調査の内容について、これから議論いただくが、修正や意見を反映させたものを改めてつくってお渡しするときに、回収の期日などを入れた形をお願いしたいと思っている。時期9月の下旬ごろにお配りして、10月の中旬頃に回収できればと考えている。あまり時間がなくて申しわけないが、よろしくをお願いしたい。

委員長

それでは、一応アンケート方法については大体まとまったので、アンケートの内容についてご意見等を伺いたい。

委員

アンケート調査の冒頭の文章については、平成24年度に統合し、2年間は九中の校舎で学び、それから新校舎に移るという流れを、こういう機会に改めて地域の方や保護者の方に周知できると思うので、九中校舎での学びがあることを付記してもらえるとありがたいと思う。

中学生用のアンケートを子どもになりきって答えてみようかと思ったが、難しい。正直、学活の時間などを使ってこれをやると、丸々1時間かかってしまう内容ではないかと思う。そこで、短い学活の中でできるくらいの内容になるとありがたい。端的に言うと、箇条書き的に例を挙げておいてまるマルをつけさせる、その他の項目も設けて書けるような形はいかがか。

それと、前のページで選択した項目の理由を次のページに書かせるようになっているが、これでは子どもたちは書きたくないと思う。関連している質問はページを跨がないで同一紙面に入れたほうが良いと思う。

ソフトなアンケートでお願いできればありがたいと思う。

設計事務所

教育委員会とも話し合っ、できるだけ1枚で簡潔に選択肢のほうを答えられるような形にしたいと思う。

委員

あまり文を書かせることはやめたほうが良いのではないか。

委員

質問も理由を書いてくださいとか、そういうのはあまりないほうが良いように思う。自由に記入してくださいという欄があれば、書きたい生徒は、そこに書くという形が良いと思うが。

委員

最後にその他の項目を設けるくらいでいいと思う。多分白紙が多くなってしまうと思う。

委員

絵のうまい子は一生懸命デザインして、絵であらわす子もいるかもしれない。

事務局

中学生用のアンケートは、選択肢を設けるようなことを含め、先生方と相談しながら修正したいと思う。それから、関連する質問がページをまたぐという点は、仮にこの項目を残す場合、見開きの冊子形式にすればクリアできると思う。

教職員用、保護者用、地域住民用についてはこれぐらいのボリュームで書いていただくということでもよろしいか。

委員

地域住民のところも見ただけで大変そうである。もう少し簡単にしてもらいたい。これだけあって書いてもらえるのならいいが、無記入ばかりでは意味がなくなってしまう。

委員

このアンケート、中学生用もそうだが、教職員用なども専門用語があり、わからないと思う。冒頭の文章も、この校舎をつくるにあたってこういうことをお願いしたいんだというようにわかりやすい表現にしたほうが良いと思う。校舎を建てる意味でいろんなアイデアを募集するのであれば、そういうアイデアを募集して、こういうところがいいところ、具体的にこういうことを挙

げてくださいと言ったほうが伝わると思うが。

委員

教職員用、保護者用、地域住民用にある質問で「本校の特色（他校と違う点）は何とされますか」というのは、わかりづらいし、書きにくいかなと思う。これはハードなのかソフトなのかと迷うところもある。例えば、本校の校舎とか施設のいいところとか悪いところを書いてくださいなどと具体的にしたほうがいいと思う。

委員

「本校のよいところは子どもがいいことです」というように書かれたりすると施設に関係ないことになってしまう。施設に特化してわかりやすくしていただければと思う。

設計事務所

はい、わかりました。

委員

中学生用のアンケートの質問の中で、校舎などの良いとされているところと改善してほしいと思うところを選択する項目がある。先ほど、トイレが明るいほうがいいという話もあったし、九中は更衣室が足りないという感じもあるので、選択項目にトイレと更衣室も入れたほうがよいと思う。また、職員室という選択項目がないが、子どもにとって先生とコミュニケーションをとりづらい職員室とか、そういう意見もあるかもしれないので聞いてみてもいいのではと感じる。

それから、アンケートそのものをなるべく簡単にというご意見もわからないでもないが、こういう機会にいろいろな人たちが学校について考えるということによって、新しい学校に対する気持ちが変わってくると思う。今アンケートに答える子どもたちは新校舎へ通って勉強しないけれども、後輩へその校舎が受け継いでいくわけだし、地域の方についてもずっとその地域にあるこの校舎を利用していくとか、学校というのは地域の拠点になっていくわけなので、こういうアンケートをとおして学校について十分に考えることで、学校が地域の拠点になるとか、子どもたちにとって何かこの辺はよりどころになるとか愛着を持つとか、そういう意味でアンケートは重要だと思う。もし、全部答えたくなかったら、自分の関心があるところだけでも一生懸命書いていただいたらそれでもいいと思う。子どもたちもプリントを持って帰っているし、全部回収できなくてもいいと思うが、短時間でちょっと思いつきで書くぐらいだったら、短時間にちょっと思いつきで書くより、後でよく考えてみたらこんなこともあったなと思いつき出すということもあっていいのではないかという気がするが。

委員長

中学生用にも自由意見欄を入れるということであった。また、選択肢にトイレ、更衣室、職員室を入れるということ。

委員

中学生が短時間でということはちょっとしょうがないと思う。

地域の方は気になるところだけでも書いていただければいいと思うし。

委員

地域住民用は意見を書くのに、そういうものも貴重だと思う。

事務局には、出された意見を反映してもらうようお願いしたい。

委員

地域住民だけでなく、子どもたちについてもしっかり考える機会として、アンケートをとおして考える時間があってもいいのかなと思う。

委員長

それでは、事務局でこれらの意見を加味して修正したアンケート用紙を配布してほしい。

事務局

はい。出された意見を踏まえて事務局のほうで修正を行い、アンケート調査を出させていただきたい。

委員長

皆さん、そのように願います。

— 異議なし —

議事(5)第九中学校校舎の改修について

委員長

次に、第九中学校校舎の改修についてである。

前回、改修についての考え方の説明を受け、九中の施設を見学して意見を出していただいた。それについて事務局で整理し、教育委員会に対する意見書の形式にしている。この件について事務局より説明をお願いします。

事務局

前回、委員の皆さんからいただいた意見を踏まえ、統合委員会として中野区教育委員会に提出する意見をまとめた報告の文案である。

■教育委員会への報告文案

- 仮校舎であっても、統合する2校の記念となるスペースを設置することは必要だと考えます。
- 老朽化している部分もかなりありますので、2年間しか使わないという制約はあるものの、教室数の確保にあわせて必要な補修をしていただきたいと思います。
- 教室数の増加に伴い、生徒用ロッカーを各教室の外の廊下に置く必要が生じます。ロッカーを廊下に置くことで教室の地窓がふさがれ、通風に支障が出る可能性があります。教室の通風を確保することが必要だと考えます。
- 改修にあたっては、大規模な形状の変更はせず、現在の校舎の歴史を伝えられるようにしてもらいたいと考えます。
- 給食については、極力質が落ちないように努めていただきたいと思います。

委員長

いかがか。意見などあればお願いしたい。特になければ、この内容で教育委員会に意見を提出するかどうか。

— 異議なし —

議事(6)その他

委員長

次に、今後の日程について事務局のほうから説明をお願いします。

事務局

先ほども説明したとおり、会議を10月に追加させていただくことになり、今後については、10月、11月、1月、2月の開催でお願いしたいと思う。また、今後の時間帯もこの場で調整していただければと思う。次回からの開催場所は区役所を予定しているが、区役所の会議室は午後6時以前の時間帯はなかなか空いていないので難しいと思う。

委員長

いろいろな希望があるのだが、第4回は10月16日の金曜日、第5回は11月19日の木曜日、いずれも午後6時30分からの開催としたい。場所はいずれも区役所で行うが、詳しい会場は開催通知で確認いただきたい。第6回と第7回の日程については、また次回以降で調整したいと思う。

委員

開始が午後6時30分からということは、終了は午後8時30分ぐらいになるか。

委員長

そのぐらいになると思う。

本日の統合委員会は、これで終了する。